

-皆様のご寄付は、以下のように活用されます-

①さくら女子中学校の運営資金

さくら女子中学校は、設立当初こそ教室や寮等の建物に、日本政府ODAや現地への教員派遣等でのJICAとの契約等の公的支援をいただきましたが、できる限り早期の自助努力での独り立ちを目指しております。ただし、建物、施設、設備等の更新ニーズ等も含め、まだまだ学校運営には追加的な支援が必要な状況です。

故岩男壽美子氏の遺志を受け、タンザニアにせっかく根付いた女子中等教育の場を維持発展させるために、多くの企業、団体、個人の皆様のご支援をよろしくお願いたします。

あなたのご支援で生徒は知識や技能を身につけ、経済的にも自立できるようになり、貧困問題を解決する大きな力となります。大半の女子が結婚して子供を育てることになると考えると、女子教育の効果は少なくとも2世代に及び、とても効果的な支援と言えます。

②生徒の奨学金

学習意欲が旺盛かつ成績優秀ながら、**家庭の事情で学業を続けられない生徒**も数多く存在します。そうした貧しい家庭の子女への奨学金制度を設けております。

生徒1人当たり**12万円で1年分の学費、寮費等**を賄うことが可能です。開校以来数多くの企業や個人の皆様からのご寄付をいただいて参りましたが、引き続きのご支援をよろしくお願いたします。また、この機会に新たにご寄付をいただける方も合わせて募集させていただきます。

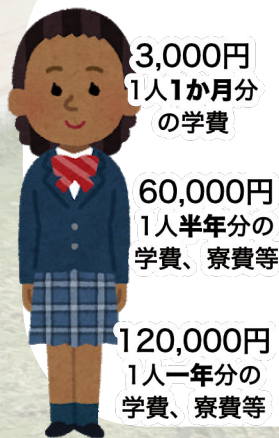
③さくら女子高校設立資金

タンザニアの中等教育は4年間のOレベル（中学校相当）コースと2年間のAレベル（高校相当）コースで構成されています。大学進学のためにはAレベルまで修了する必要がありますが、さくら女子中学校にはAレベルがありません。

本校でより高いレベルの教育を提供するため、私たちは、Aレベル、つまりは**さくら女子高校**の設立を目指しています。これは、創設者・岩尾寿美子の願いでもあり、そのための追加の校舎や寮、設備等の建設資金、そして学校運営資金が必要です。

さくら女子高校の設立のために、引き続き民間レベルのご支援が必要です。皆様の更なるご支援をよろしくお願いたします。

-ご支援の内容例-



-寄付金の税制上の優遇措置、申込、支払方法-

ご寄付は公益社団法人企業市民協議会（CBCC）を経由することで税の優遇措置の対象となります。詳しくは、さくら女子中学校ホームページの「**ご寄付 (Donation)**」のご案内をご参照ください。なお、特に税の優遇措置をご希望されない場合は、下記ウェブサイトの「**お問い合わせ (Contact)**」にご連絡の上、以下の口座にご送金をよろしくお願いたします。



-お振込先-

三井住友銀行 恵比寿支店 (普通) 8878784
口座名義：一般社団法人キリマンジャロの会

*一般社団法人キリマンジャロの会とは

さくら女子中学校の運営と教育を支援することを目的とし、立教セカンドステージ大学で学んだ同塊の世代が故・岩男壽美子氏の理念と熱意に賛同し設立した非営利団体。2014年に一般社団法人として設立され、理事6名、事務局長1名、会員8名で構成されています。
(2019年12月現在)



タンザニアの女の子が安心して学ぶため
さくら女子中学校へのご支援を!

一般社団法人 キリマンジャロの会
代表理事 古谷公文
<http://www.sakura.vision>

未来の女性リーダーを育てる！！



タンザニア、キリマンジャロの麓にあるアルーシャ州のマサイの村バンガタ。2016年1月、この村に、さくら女子中学校（4年制）が日本からの支援で開校しました。村で唯一の女子中学校ですが、全寮制であり、遠方からも生徒を受け入れています。

さくら女子中学校は、元慶應義塾大学名誉教授、(故)岩男壽美子氏により創設されました。同氏は、**教育機会に恵まれない女子に安心して勉強する機会を提供し、理数系に強い知日派の女性リーダーに育て、社会貢献の牽引役にするために理数科目担当教員を日本から派遣しました。**また、教科の他に食育、環境保全教育、健康教育、国際理解教育等にも力を入れ、**生きる力**をつけて社会に送り出すことを目指しました。

現地の文化に配慮しながら、日本人が得意とする「丁寧さ」「細部へのこだわり」「向上心を持ち続ける行動様式」を身に付けた人材に育て、進出企業のお役に立つことができます。このように、女子に中等教育を提供することで早婚を防ぎ、タンザニア、さらにはアフリカ全体の貧困人口の増加を抑えることができます。それは回り回って少子高齢化社会の、日本の次世代の負担軽減に繋がります。

岩 男氏は、日本政府、民間企業、多くの個人の皆様に上記理念を強く訴え、以下の通りの支援、協力を得ることができました。

教室、寮等の建物、安全のためのフェンス等の諸施設は**政府ODA**が利用され、理科実験室、図書室、食材調達のための土地購入等には**民間企業、個人の皆様**からのご支援で賄われました。

岩男氏は、残念ながら2018年に志半ばで急逝されましたが、同氏長男、古谷公文氏がその遺志を受け継ぎ、本プロジェクトを推進し、今日に至っています。



-さくら女子中学校の教育方針-

1. 好奇心に溢れ、知識や生き方を学ぶことを喜び、
2. 主体的に深く考え、理解し、行動する力を身に付け、
3. 質の高い成果を目指し、
4. 他者との違い、多様性を大切にする。

しなやかな人間に育つことを目指します。

教育の質がまだまだ十分とは言えない現地で、さくら女子中学校は質の高い教育を提供しています。

特に「理数科目」を重視し、男性優位のタンザニア社会でも能力を認められ活躍できる人材に育てます。

また、**JICA**とパートナーシップを組み、生徒が積極的に学びに参加できる「**生徒中心・対話型**」の授業や「**全人教育**」をはじめ、国際社会に通用する学習を推進しています。(JICA草の根技術協力事業のプロジェクト)



さくら女子中学校は**現地のモデル校**になることを目指しており、JICAとのパートナーシップ終了後（開校5年後）も、その成果が着実に結実することを望んでおります。



さくら名物！伝統ダンスの衣装

NEWS

-第1期生の卒業-

2019年10月、さくら女子中学校では開校後初の卒業式が開催されました。当日は、駐タンザニア日本大使、JICAタンザニア事務所、ご支援者の方々にご参列を賜り、4年生26名がその卒業を祝福されました。



-国家試験で快挙-

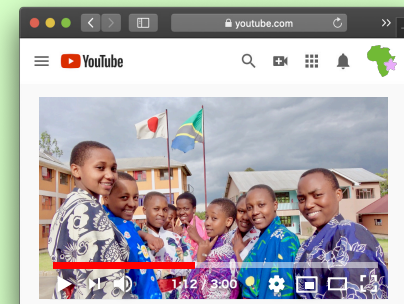
タンザニアで2019年11月に中学4年生、2年生を対象に行われた国家試験において、4年生、2年生全員合格の快挙を達成しました。特に2年生は、42名中39名が最高得点で、州でトップクラスの実績を挙げました。こうしたことからさくら女子中学は開校4年にしてタンザニアで有数の進学校との評価を得ることとなり、2020年度の新入生募集には、州外やなんと国外からも応募されるまでとなりました。



安

倍首相の国連総会（2019年9月25日）の一般討論演説において、さくら女子中学校が、「**2016年1月、タンザニアに日本人の手によって開校したのは、『さくら』の名を冠する女子中学校**」として言及されました。

その後、**首相官邸の公式YouTubeチャンネル**でも本校が紹介されています。



さくら女子中学校

